

せいとつ病院です

● 特集

狭心症のはなし

- **こんにちは探検隊**
幸町外科医院
- **Zoom upがん医療は今**
あたらしいがん治療薬と
その皮膚症状に対する取り組み
- **医療安全・感染対策 最前線**
感染対策
- **なるほど！なっ得！薬の話**
痛み止めの巻
- **医療をささえる看護のちから**
13病棟
- **こんにちは体験ルポ**
心臓カテーテル検査

理念 安心・安全

患者さんの安心・安全
職員の安心・安全
病院の安心・安全

基本方針

患者さんの人権を尊重し
インフォームド・コンセントを大切に
安心して任せられる医療とサービスを提供します

地域との連携を大切に かかりつけ医との協力のもと
24時間信頼される診療体制を充実させます

最新・最良の医療水準をめざして研修・教育に努め
チーム医療の推進を図ります





特集

狭心症のはなし

生命と直結する心臓病の早期発見

2
特集
狭心症のはなし

狭心症とは

心臓は全身に血液を送り出す筋肉でできたポンプです。この心臓の筋肉自身に酸素や、栄養を供給している血管を冠状動脈(図1)といいます。高血圧・糖尿病・高脂血症などの生活習慣病があったり、タバコを吸っていると、この冠状動脈に動脈硬化がおこり、狭くなったり、詰まったりすることがよくあります。

冠状動脈が狭くなり、心臓の筋肉への血液の供給が不足する病気を「狭心症」(図2)といい、さらに進行して冠状動脈が閉塞し心臓の筋肉が死んでしまう病気を「心筋梗塞」(図3)といいます。いずれも生命を脅かす恐ろしい病気です。とくに心筋梗塞は、病院にたどりつく前に3人にひとりが亡くなるとされています。

心筋梗塞がおこるのを防ぐには、生活習慣病の治療や禁煙はもちろんですが、狭心症の状態のときに見つけて、治療を開始することが重要です。

図1 3D-CT 冠状動脈

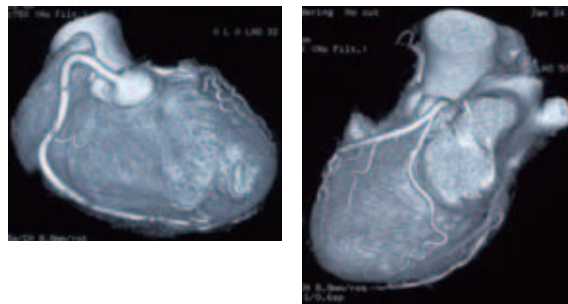


図2 狭心症



図3 心筋梗塞



狭心症のみつけ方

典型的な狭心症の症状は胸痛で、体を動かしたとき、冷たい空気にさらされたとき、早朝などにおこります。ただし、このような胸痛のある患者さんは約半数で、残りの患者さんは、はっきりした症状がありません。あきらかな胸痛がある人は、病院を受診し早期に治療が開始できます。逆にあきらかな症状のない人は、発見が遅れ重症化したり、心筋梗塞をおこしてしまう危険があります。

狭心症を早期に見つけ治療するには、狭心症になりやすい生活習慣病や喫煙歴のある方々に、定期的に心臓の検査をうけていただく必要があります。

狭心症をみつけるための検査

通常の胸のX線写真や心電図では、狭心症の診断はできません。以下のような検査を患者さんの状態によって、選んで行う必要があります。

トレッドミルテスト	心電図を装着して、ベルトコンベアの上を走る検査です。狭心症があると心電図に異常がみられます。十分な脚力のある人に行います。(写真1)
心筋シンチグラム	ラジオアイソトープを注射し、ガンマカメラで心臓の筋肉の血流状態を評価します。狭心症があると血流の低下を認めます。運動のできない人にも可能です。(図4)
CT検査	造影剤を注射して、胸のCTスキャンを撮ると冠動脈が描出できます。健康診断的に広く行えますが、脈拍が多いときれいな画像が取れないこともあります。また不整脈がある人、腎臓の悪い人、腕の血管が細い人では困難です。(図1)
心臓カテーテル検査	狭心症の診断確定と治療方針を決めるために行う大変重要な検査です。狭心症と思われる胸痛のある人や、上記の諸検査で狭心症の可能性が高い人に行います。2泊3日の入院が必要です。当院では年間700~800件の心臓カテーテル検査を行っています。(図5)



写真1 トレッドミルテスト
(実際は病衣を着用します)

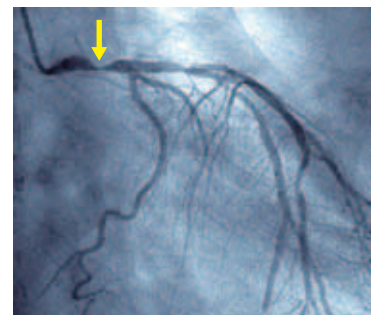


図5 心臓カテーテル検査
矢印の所が狭窄部位

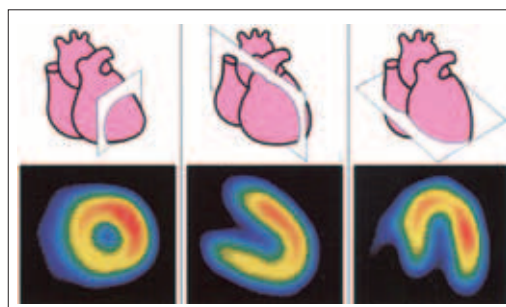


図4 心筋シンチグラム
血流の状態

おわりに

狭心症に限らず、心臓病は生命と直結する重大な病気ですが、早期発見・早期治療で劇的に回復します。高血圧・糖尿病・高脂血症のある方、たばこを吸っている方、過去に吸っていた方は、かかりつけの医師に相談し、狭心症の検査をうけられることをおすすめします。



循環器科部長 古賀 徳之

日本内科学会専門医
日本内科学会指導医
日本循環器学会専門医
日本腎臓学会専門医
日本心血管インターベンション治療学会専門医

幸町外科医院



今回は、戸畑区千防にある幸町外科医院を訪問しました。昭和28年に現在地に先代のお父様が開業されました。その当時の地名が幸町で、「幸せな町」と縁起が良いこともあり、幸町外科という名前をつけられたそうです。

平成元年に田中公晴先生が院長となり、今年で23周年を迎えています。

Q：貴院のモットーを教えてください

A：専門は消化器外科ですが、幅広く診療を行っています。長年通院されている患者さんも多く、病診連携を大切にして、病気の早期発見に努め、専門の医療機関で早期治療を行い、その人らしい生活ができるだけ長く送ってもらえるようにがんばっています。

Q：貴院の特色を教えてください

A：超音波検査(エコー)を週に60件ほど行っており、エコーを中心としたスクリーニングを大切にしています。スクリーニングは年2回パターン化して検査を行い、腎がんや膵がん、甲状腺がんといった疾患の早期治療につながるようにしています。また、乳がんが専門の田中晴生医師(幸町外科医院副院長)が、現在、週1回九大から診察に来て、早期発見に力を入れています。スタッフは、看護師7名のほかに理学療法士・医療事務・看護助手7名の計14名で、勤務年数も長

いベテランが多く息もぴったりで、一を言えば十のことを理解して対応してくれています。在宅療養をされている患者さんへの訪問診療や訪問看護も行っており、患者さんがなるべく長く在宅で生活できるよう、地域に根ざした医療を行っています。

Q：当院へのメッセージをお願いします

A：安心して治療してもらえる病院として、患者さんをいつも紹介させていただいています。病診連携はこれからも大事な役割を果たしていくと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



平成20年撮影



院長 田中 公晴先生



開業以来、長い間築いてきた地域のみなさんとのアットホームな雰囲気、患者さんへの対応も院長先生の温かい人柄を感じる診察をされておられました。お孫さんとの時間も大切にされておられる、そんな院長先生とスタッフの方々との深い信頼関係が伝わってくる取材となりました。



今回の探検隊

医療相談室 放射線部
清國 睦美 中園 裕一郎

幸町外科医院

戸畑区千防3-6-19
TEL093-871-2518

診療時間

	月	火	水	木	金	土	日
8:30~13:00	○	○	○	○	○	○	△
14:00~18:00	○	○	△	○	○	△	△



外科医長
杉町 圭史

あたらしいがん治療薬と その皮膚症状に対する取り組み

新規抗がん剤

最近、分子標的薬と呼ばれるあらたな抗がん治療薬が開発され、がんの患者さんに使われるようになってきました。具体的には、肝がんや腎がんに対して使われるソラフェニブ(ネクサバル®)、大腸がんに対して使われるパニツムバブ(ベクティビックス®)、セツキシマブ(アービタックス®)といった薬です。これらの薬はがん細胞に特異的にはたらき、抗がん効果が高い一方で、正常細胞に対する毒性(副作用)が低いことが期待されています。このため、従来の抗がん剤でよくみられた白血球低下や貧血などの副作用は起こりませんが、一方で特有の皮膚症状が多くみられます。

分子標的薬で起こる皮膚症状



図1

ソラフェニブでよく起こる皮膚症状に手足症候群があります(図1)。手のひらや足の裏の皮膚がかたくなって腫れ、ひどくなると水疱ができて強い痛みをとまいます。

パニツムバブやセツキシマブなどでは、薬をはじめてから早い時期に、にきびのような^{ざそう}瘡瘡様皮膚炎(図2)がよく見られます。1ヵ月頃からは皮膚が乾燥しひび割れる乾皮症、2ヵ月頃からは爪のまわりが腫れる爪周囲炎(図3)などがしばしば見られます。

皮膚症状に対する取り組み

日常生活でのスキンケアによって、症状がでるのを遅らせることができます。スキンケアの基本は「清潔」「保湿」「刺激をさける」ことです。新日鐵八幡記念病院では、治療開始前に看護師・薬剤師によるスキンケアの指導を行っています(図4)。症状がひどくなるとステロイド外用剤などの薬が有効になります。早めに当院や地域の皮膚科を受診していただき、抗がん治療と並行して治療をしています。「にきびのような湿疹」と「にきび」は違うため、市販のにきび治療薬は使わないでください。

皮膚症状を軽減することで患者さんの負担が減り、日常生活を楽に送れるだけでなく、がんに対する治療を継続することができ、よりよい効果が期待できます。



図2



図3



図4

感染対策



感染防止対策の基本は標準予防策です。

標準予防策とは、すべての患者さんの血液・体液・汗以外の分泌物・排泄物および傷のある皮膚・粘膜は感染性のあるものとみなし、直接接触することを避けることです。とくに最近では、「標準予防策の強化をして、感染の発生を未然に防ぐこと」が感染対策の主眼とされています。

当院での具体的な対策について、今回は使い捨て手袋とエプロンの着用についてお話いたします。

医療安全管理室主任(感染管理認定看護師) 山中 直子(左)

看護部外来主任(感染管理認定看護師) 川原 しのぶ(右)

使い捨て手袋

医療従事者の手が、血液・排泄物・傷のある皮膚などに触れる場合に使用します。

例：採血、傷の処置



使い捨てエプロン

医療従事者の身体に、血液・排泄物・危険物が飛び散る可能性のある場合に使用します。

例：内視鏡検査、傷を洗浄する



手袋やエプロンを外したあとは、必ず手指消毒または手洗いをおこないます。

患者さんと職員を院内感染から守り、安心・安全な医療の実現のため医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師や事務部門など多職種からなる感染制御チーム (ICT: Infection Control Team) を設置しています。活動内容は、定期的に院内をラウンドして各種感染対策の実施状況の点検等を行ったり感染防止対策の知識向上のため、講演会や勉強会を実施しています。



痛み止めの巻



「痛い」と感じたその時、それはからだの警告信号です。痛みは病気そのものではなく、病気などによって引き起こされた症状です。

痛み止めは痛みの原因によって色々な薬を選んで使いますので、一口に「痛み止め」といっても種類はさまざまです。「痛み止めです」と渡された薬もすべての痛みに効くわけではありませんから、原因と症状にあった薬を使うことが大切です。痛み止めの種類別に例をあげて説明します。

けが(傷)の痛みを使う薬

よく使用されるのは、解熱鎮痛消炎薬と呼ばれる痛み止めです。これは体内で痛みや発熱の原因になる物質が作られるのを押さえることで、痛みを和らげ、熱を下げてくれます。けがをした時と、熱が出た時にもらった頓服薬(症状があるときに使う薬)が同じだった経験があるかと思います。これは、ひとつの成分が両方の働きをする薬です。

片頭痛を使う薬

片頭痛には、片頭痛に特異的に効くトリプタン系の薬を使用します。この薬は痛み止めといっても片頭痛にしか効き目がありません。テレビで「頭痛・生理痛に〇〇」と痛み止めのコマーシャルがありますが、この片頭痛の薬はもちろん生理痛には効き目がありません。

がんの痛みを使う薬

がんの痛みや、ある種の慢性的な痛みを使う薬にモルヒネなどの麻薬があります。モルヒネは痛みを伝える特異的なオピオイド受容体に結合して、痛みを止めます。モルヒネというと「中毒」を連想されるかもしれませんが、痛みのある患者さんに適切な量を使っている場合には、まったくそのような心配はありません。上手に使って痛みを和らげるこのほうが大切です。

お腹の痛みを使う薬

前号でも触れていますが、このお薬は消化管のけいれんによる痛みや、胃酸による胃の痛みに使います。解熱鎮痛消炎薬の中には、消化管への直接的な刺激や胃粘膜の防御能を低下させることで胃腸障害を起こすものもありますので、間違った使い方をするとおなかの痛みを止めるどころか、逆の働きをしてしまう可能性もありますので注意が必要です。

ちょっと例をあげただけでも痛みの種類にあわせて、痛み止めも使い分けが必要なことがお判りいただけると思います。病院にかかって出された痛み止めは、医師の指示にしたがって正しく安全に使うようにしてください。

13病棟

笑顔とやさしさがあふれる、
だれもが安心できる病棟をめざします



13病棟は、女性を対象とする外科系の入院病棟です。

緊急の入院はもちろんのこと、乳がんや婦人科などの女性特有の疾患のほか、外科全般・血管外科・泌尿器科の方が多くを占めます。おもに手術を受けられる方、そのほかにも抗がん剤治療や放射線治療、疼痛などのコントロールなどの対症療法を行うために入院してこられる方の看護を行っています。年齢層も幅広く、ご高齢の方も多く入院されますので、それぞれの患者さんに合わせた安全対策(転倒・転落予防)をとっています。

病棟スタッフは、看護師が29人(うち助産師4人)、看護助手が5人の大所帯です。婦人病棟として、同じ女性の立場からプライバシーやライフサイクルにもきめ細やかに対応し、女性らしいあたたかな雰囲気での入院生活が送れるように、日ごろから配慮しております。

またつねに、患者さんの安全をモットーに、笑顔とやさしさのあふれる看護を目標にケアを行っています。

13病棟では、経験豊かな助産師も常駐しておりますので、女性のライフスタイルでの不安や、更年期の心配、思春期での相談なども気軽にお申し出ください。



フットケアラウンド

血管病・フットケアセンター設立にともない、13病棟ではフットケアチームを立ち上げ、血管外科医師、皮膚・排泄ケア認定看護師、リハビリ担当者とともにラウンドを行っています。回診に付き添い、ケアおよび治療への評価を話し合います。また、日々の足の観察を記録、早期の異常を発見できる体制を整えています。

チームカンファレンス

患者さんの病状に合わせた看護が行えているかどうか、看護の質を高めるために、毎日話し合いをしています。

がんの患者さんに対しては、乳がん看護認定看護師や女性薬剤師が専門の立場からサポートし、治療に専念できるように配慮しています。

看護師だけでなく、医師・医療ソーシャルワーカー・臨床心理士・理学療法士・言語療法士が参加することもあり、チームで患者さんの日常生活の向上をめざしています。



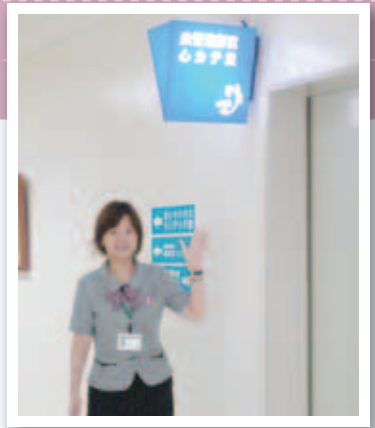
13病棟担当薬剤師より

患者さんが安心して治療に取り組めるように薬の説明を行うだけでなく、副作用の状態を評価して、軽減できるようなセルフケアや薬を提案しています。治療が安全に行えるよう医師、看護師とともに日々協力して、薬物療法を支えます。

松本 知子

心臓カテーテル検査

心臓の血管にカテーテルと呼ばれる細い管を直接入れ、心筋梗塞や狭心症などの虚血性心疾患を診断します。原則として、2泊3日の入院で行います。



①検査台の上に横になります



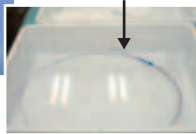
②心電図モニターをつけます



③生理検査技師、診療放射線技師がサポートします



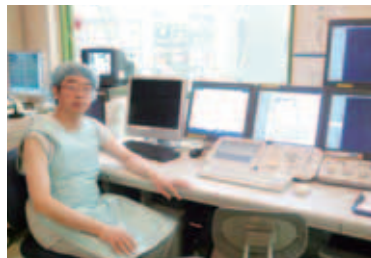
④はじめに局所麻酔をし、手首の動脈からカテーテルを挿入します



⑤医師がモニターを見ながら、心臓の血管までカテーテルをすすめ、造影剤を流して撮影します



⑥カテーテルを抜いたあと止血バンドをします



⑦検査後、画像をみながら説明があります



循環器科医師・心カテ室スタッフ



今回の体験隊

薬剤部 松本 知子
医事部 可児 由加里

血管病・フットケアセンターを設置しました

高齢化にともなう動脈硬化性疾患の増加に加え、糖尿病・維持透析合併症例の急増は下肢の病状を複雑化し、ひとつの診療科での完結はできなくなり、複数の診療科、診療部による集学的治療が必須となりました。

新日鐵八幡記念病院では、血管外科をはじめとする複数の診療科および看護部・検査部・リハビリテーション部・地域医療連携室などと連携し、治療が困難な末梢血管疾患、とくに虚血を合併する下肢病変に対し、最適な治療を患者さんに提供することを目的としています。地域の末梢血管疾患治療の中心となるべく、充実した施設に成長したいと思います。



血管病・フットケアセンター長
血管外科部長 三井 信介



●血行再建カンファレンス

血管外科を中心として、循環器科・放射線科とカンファレンスを行い、個々の症例に最適な治療を提供しています。



●フットケアカンファレンス

血管外科医師・WOCナース(皮膚・排泄ケア認定看護師)を中心に週1回のラウンドカンファレンスを行い、治療効果の評価と、今後の治療方針を決定します。

新日鐵八幡記念病院 「第3回地域医療連携の夕べ」



6月30日北九州八幡ロイヤルホテルにて、「第3回地域医療連携の夕べ」を開催いたしました。出席者は当院のスタッフを含め345名と盛況で、石東病院長と4月から内科系副院長に就任した梶原副院長のあいさつのあと、当院の4つの診療部門の取り組みを紹介いたしました。

血管病・フットケアセンターの立ち上げ



「センターとしてチームを作り、血行再建・フットケアについて集学的治療を行います」

血管病・フットケアセンター長
血管外科部長 三井 信介

慢性腎臓病の病診連携



「CKD予防連携システムを活用していただき、かかりつけ医と腎専門医が密に連携を計る必要があると考えます」

腎臓内科部長 柳田 太平

泌尿器科の現状と病診連携の取り組み



「膀胱がんスクリーニングプログラムによる病診連携で、早期発見を」

泌尿器科部長 奥村 幸司

呼吸器科診療内容のご紹介



「肺がんをはじめとする呼吸器疾患全般を対象に、地域と連携しています」

呼吸器科部長 今永 知俊

からだにやさしい 下肢静脈瘤レーザー手術を行っています

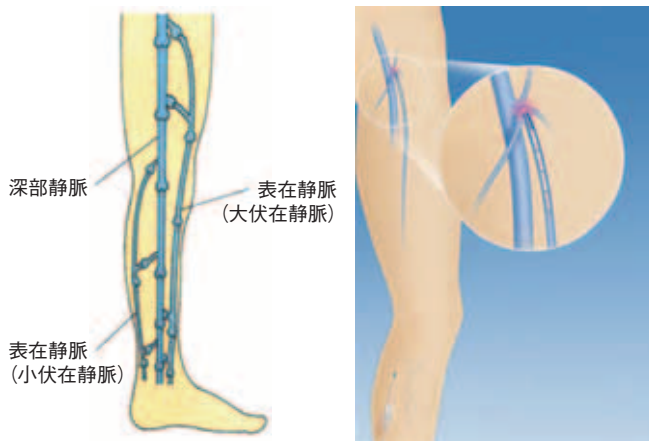
下肢静脈瘤に対するレーザー手術が今年から保険適応になり、新日鐵八幡記念病院 血管病・フットケアセンターでは6月よりこの手術を開始しました。九州では、現在(2011年9月)のところ4施設でしか行われていません。

レーザー手術とは、血管内レーザー治療による血管閉塞法のことです。静脈に光ファイバーという細い管を入れ、その先端からレーザー光を照射して、発生した熱により静脈を内側から閉じる治療です。大伏在静脈または小伏在静脈の弁がこわれて逆流がある場合に適応となります。静脈エコー(超音波診断装置)で逆流状態を検査し、症状等から医師が判断します。

● メリット

- 身体に与えるダメージがきわめて少ない手術です
- 合併症や再発の頻度が少ないです
- 傷あとは数mmが1ヶ所のみでほとんど残りません
- 術後の痛みや出血が少ない治療です
- 従来手術より入院期間が短くてすみます(基本的には1泊2日)

下肢静脈瘤は早めの予防と治療が大切です



ELVeS レーザー

● 下肢静脈瘤とは…



足の静脈には、重力に逆らって血液を心臓に返す必要があるため、逆流防止のための弁があります。何らかの原因で弁のはたらきが悪くなり、血液が逆流してうっ滞して起こる病気です。

女性に多く、ひざの内側やうしろ側に血管の拡張や蛇行により、ぼこぼこしたコブができ、だるさや重さ、鈍い痛み、むくみや夜間のこむらがえりなどの症状がでできます。さらに進むと、皮膚が黒ずんできたり、皮膚が硬くなり難治性の潰瘍になります。

Topics

救急看護認定看護師合格しました

当院では、皮膚・排泄ケア、感染管理、集中ケア、乳がん看護、緩和ケア、摂食・嚥下障害の6つの分野の認定看護師9名が、看護スペシャリストとして院内はもとより地域でも活躍中です。今年、あらたに救急看護認定看護師が誕生しました。

救急看護認定看護師は、緊急病態の患者さんの状態を見ながら、どのような看護や処置を優先して行うべきかを専門的知識を生かし、判断しながら看護を行います。そして、人の生命を守るだけでなく、危機的状態にある患者さんやご家族の方の身体面・精神面の看護や、救命技術の指導を行う役割も担っていきます。

「できる限り多くの方々の生命・生活を守るために、色々なスタッフの協力も得ながら、緊急病態の患者さんの看護を充実させていきたいと思っています。」

救急看護認定看護師 山口 和子



東日本震災ボランティア活動報告

福島原子力発電所の20キロ避難区域内では、放射線物質による汚染のスクリーニングサーベイが必要となりました。当院から日本放射線技師会の第8次隊として、放射線部の稲永勝敏さんが、5月14日から19日まで福島県相馬市に派遣され、サーベイや環境測定を行いました。



「現地入りした日に、まず地域の現状の厳しさを実感。収束には程遠い現状に困惑したもの、ボランティアを通じ、県外からの応援による総力戦、警察の方々や自衛官の活動とその姿勢に感銘を受けました。」



放射線部 稲永 勝敏

コミュニケーションラウンジ あなたのご意見より

病室の壁に絵画等があれば良いと思います。病院職員や新日鐵の絵画サークル、看護学生の作品などの展示はできないでしょうか？

ロビーや廊下には、新日鐵絵画同好会の作品を掲示しています。病室では、落下の危険性や、ほこりが額縁にたまるなどを考慮し、掲示を見合わせています。ご了承ください。



貴重なご意見ありがとうございました。

情報公開レベル優良医療施設

当院は「情報公開レベル優良医療施設」としてはとあと評価の認定3/Stage-1の第三者認定を受けました。この病院情報の“健康診断”結果を指針として、利用者のみなさんや職員へのさまざまな情報提供や相互のコミュニケーションの向上など、透明性を高める活動に、病院をあげて取り組めます。

認定機関
特定非営利活動法人 日本HIS研究センター
病院広報・情報公開評価審査会



ペットボトルキャップをあつめて
世界の子どもたちに
ワクチンを届けよう!

8月18日現在979人分 ご協力ありがとうございます

- 6月 八幡大蔵病院のみなさん/鳴水市民センターのみなさん
- 7月 エーザイ(株)九州エリア 九州三部のみなさん

診療科目

内科	消化器科	循環器科	糖尿病内科	腎臓内科	心療内科
脳血管内科	呼吸器科	小児科	外科	消化器外科	呼吸器外科
血管外科	脳神経外科	整形外科	リウマチ科	形成外科	産婦人科
皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻咽喉科	放射線科	麻酔科

専門外来

内科	神経内科/血液外来/甲状腺外来/膠原病外来/ペースメーカー外来/腹膜透析外来/禁煙外来	呼吸器科	SAS外来(睡眠時無呼吸症候群)	整形外科	リウマチ外来
心療内科	カウンセリング/自律訓練外来	小児科	小児アレルギー/小児循環器/小児神経/小児腎臓/小児肥満/小児糖尿病(DM)	耳鼻咽喉科	めまい外来
		外科	ペインクリニック	放射線科	放射線治療外来
				緩和ケア	緩和ケア外来
				女性診療外来	乳腺外来

休診日:日曜、祭日、第2・4土曜日

予約センター: 093-671-5489

夜間休日急患受付: 093-672-3111

全科予約制

予約受付時間 8:00~16:00
当日予約は10:30まで

編集後記

最近、新聞などの小さな文字が読みづらくなってきました。老眼を受け入れる準備はできていたつもりですが、やはり不自由さと、少しばかり寂しさを感じる今日この頃です。
リハビリテーション部 松永 裕也

こんにちは
せいこつ病院です

発行日: 2011年10月1日
発行部数: 4000部

医療法人社団 新日鐵八幡記念病院
〒805-8508北九州市八幡東区春の町1丁目1-1
TEL 093-672-3176
http://www.ns.yawata-mhp.or.jp
編集・発行責任者: 病院長 石束 隆男

●広報誌へのご意見はこちらまで info@ns.yawata-mhp.or.jp
●地域医療連携のお問い合わせ TEL093-671-9700

デザイン編集・印刷: よしみ工業株式会社 表紙イラスト: かわぐち たまよ

